

村野藤吾と長谷川堯

Togo Murano and Takashi Hasegawa

その交友と対話の軌跡
Traces of Their Friendship and Dialogue



唐津の海岸を歩く村野藤吾と長谷川堯（1980年4月22日）[長谷川家蔵]

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

2023年3月22日[水] — 6月10日[土]

休館日：日曜・祝日

開館時間：10:00 — 17:00（入館は16:30まで）

入館料：一般 200 円、大学生 150 円、高校生以下無料

・大学コンソーシアム京都に加盟する大学の学生は学生証の提示により無料。
・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳または被爆者健康手帳をお持ちの方及び付添の方1名は無料。
入館の際は、手帳の提示をお願いします。

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館、村野藤吾の設計研究会

京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES

建築評論家・長谷川 堯(1937—2019年)は、島根県に生まれ、早稲田大学文学部で美術史を専攻する。そこで恩師の美術評論家で建築評論家の草分けでもあった板垣 鷹穂(1894—1966年)の指導を受け、近代建築史を卒業論文のテーマに選ぶ。そして、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエ、ワルター・グロピウスの建築思想をテーマとする卒業論文をまとめる。板垣は、この卒業論文を高く評価し、著名な建築雑誌『国際建築』を主宰する小山正和に伝えたことから、この論文は同誌に連載され、長谷川は、1960年の大学卒業と同時に建築評論家としてデビューを飾ることになる。だが、文学部出身という異色の存在でもあり、その道のりは決して順調なものではなかった。それでも、精力的な執筆を続けた長谷川は、独自の視点から日本の近代建築史を検証し、1972年、『神殿か獄舎か』(相模書房)で、大きな問いかけを行う。そして、この前後から、村野藤吾(1891—1984年)と出会い、親交を深めていく。また、村野も、長谷川に信頼を寄せて、繰り返し対談の相手に指名する。こうして、長谷川は、村野の再評価と近代建築史の再考という仕事を進めていくことになる。そして、村野の没後も、『村野藤吾の建築 昭和・戦前』(鹿島出版会、2011年)を上梓するなど、現代へと続く村野藤吾の歴史的評価を決定づける多くの活動が続けたのである。

本展では、二人の交友と対話の軌跡を追いながら、長谷川の眼差しと言葉を手がかりに村野の建築を振り返り、建築評論家・長谷川 堯の成し遂げた仕事を通して、建築を社会が共有するために必要なものとは何か、を考える機会にしたい。

当館の感染症予防対策の取組み

- ・ お客様対応をおこなうスタッフはマスクを着用し、検温による健康チェック及び手指の消毒をおこなっております。
- ・ 受付には、飛沫感染防止用つい立てを設置しております。
- ・ 館内入口と一部展示室の窓を常時開放し、可能な限りの換気に努めております。
- ・ 多くのお客様が手を触れる箇所の定期的な消毒を実施しております。

ご来館の皆様へお願い

- ・ 発熱、せき、くしゃみ、臭覚・味覚異常など風邪症状がある方や、体調のすぐれない方の入館はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・ マスクの持参・着用をお願いいたします。
- ・ 来館時に検温を実施いたします。37.5度以上の熱があるお客様は、ご入館をお断りします。
- ・ 団体でのご来館はご控えください。混雑状況に応じて、入館をお待ちいただく場合がございます。
- ・ 設置している消毒用アルコールで手指の消毒をお願いいたします。
- ・ ご入館の際に、氏名・連絡先等の記入をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

同時開催

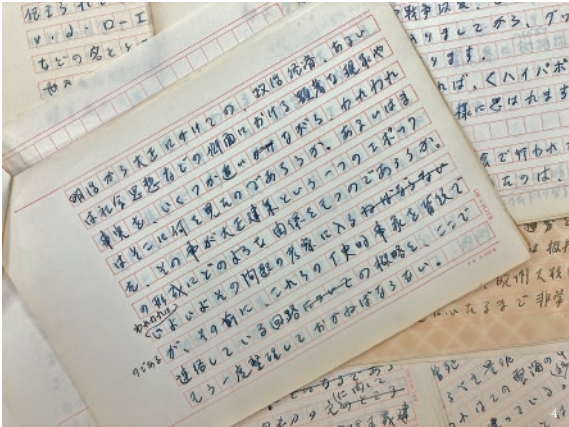
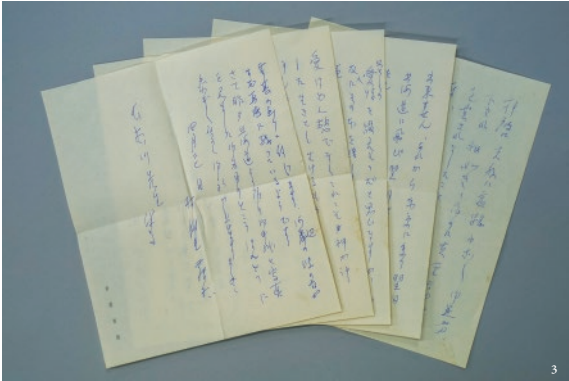
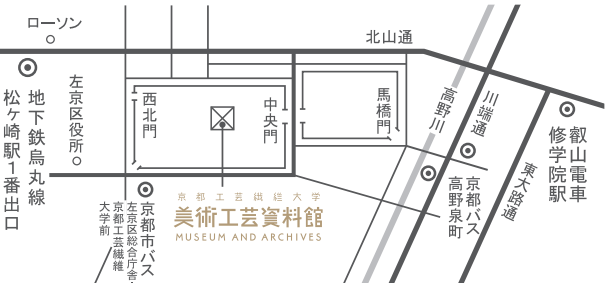
建築家・鬼頭梓の切り拓いた戦後図書館の地平
Architectural Works by Azusa Kito
Towards Architecture of the Public Library based on Democracy

お問合せ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館 | Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 Hashigami-cho Matsugasaki Sakyo-ku Kyoto-shi Kyoto 606-8585, Japan
Tel: 075-724-7924 E-mail: shiryokan@jim.kit.ac.jp URL: www.museum.kit.ac.jp/

アクセス

市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分
京都バス「高野泉町」下車、西へ徒歩約10分
叡山電車「修学院駅」下車、西へ徒歩約15分
By Subways: Take Karasuma Line Subway to “Matsugasaki” Station, exit from Exit 1 and walk east for 8 minutes.
By Kyoto Bus: Get off at “Takano-Izumicho” stop. Cross the Takano river and walk west for 10 minutes.
By Eizan Railway: Get off at “Shugakuin” Station and walk west for 15 minutes.
Museum and Archives is located in front of the main entrance of KIT west campus.



1. 長谷川堯が撮影した唐津の風景 2. 長谷川堯が撮影した村野藤吾作品（関西大学）のポジフィルム
3. 長谷川堯に宛てた村野藤吾の書簡 4. 長谷川堯の自筆原稿 [すべて長谷川家蔵]